




【プログラムの進め方】①木にふれてみよう！

	学習内容・活動	写真
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・始めに「木って何？」と問いかけ、木の特長を写真やイラストで簡単に説明する。「知ってる木ってある？」「幼稚園にある木ってどんな木？」 ・木と仲良くなるためのものが入っているブラックBOXを見せ、輪になるように指示する。 ・一人ずつ、BOXに手を入れて、入っているものの中から1つ素材を選び、手ざわりや感触をことば（擬態語）にして、みんなに伝える。スタッフや先生は、それを付箋紙に書きとめ、ことば銀行とする。 	 <p>■ブラックBOX</p>
		 <p>■箱の中身（10種）</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・全員がさわったら、BOXを開けて、自分がさわった素材がどれかを当てることを告げる。 ・BOXの中から素材を取り出し、順に並べる。 ・今度は、目で見て手ざわりを確認する。 ・種明かし。自分がいったことば銀行を確認しながら、もう一度さわってみる。 ・全員が終わったら、その素材と言葉を読み上げる ・体験してどうだった？その素材をどこでさわった？手のひら？指？目で見て変えた？ ・このBOXに入っているものは、すべて木と関係のあるものばかりであることを告げる。 ・同じものでも人によって表現や感覚が違う。 ・木は、さまざまな形や特長を持ち、さまざまな生きものをつながっていることに気づかせる。 ・私たちも木がなくては、暮らしていけない。地球にとって、なくてはならない生きものであることを告げる。 ・むやみに傷つけないようにすること。今度、近くの公園や山にいったら、そっと近づいて木を観察するように促す。そして、何か見つけたり、発見したら、おうちの人や先生に知らせてねと告げて終わる。リスキマネージメントを忘れずに。 	 <p>■ことば銀行</p>
		 <p>■木と生きもののつながり</p>
ふりかえり		
まとめ		

【プログラムのアピールポイント】

- ・五感の一つである「さわる・ふれる」という感触を探究できる。
- ・木や木につながるさまざまなものの感触について、ことばで表現できるようになる。
- ・同じものを使う、何度も繰り返すことでカタチを認識できるようになる。
- ・絵や文字の書けない子どもに対応が可能。
- ・③アートプロジェクト「フロッタージュ」をこの後に体験させるとより深まる。
- ・絵本「き」「木の本」「木のうた」の活用が可能。
- ・絵本「山に木を植えました」の読み聞かせにつなげることができる。




【プログラムの進め方】②葉っぱのカタチ

	学習内容・活動	写真
導入	<ul style="list-style-type: none"> • 私たちは、5つの感覚を持っている。それは何かを問いかける。見本を示しながら五感を説明する。 • これはザラザラ。なぜ？さわったから。手のカード。 • これはお花。いい香り。花のカード。 • 先生の声や周りの音、聞こえる？何気なく過ごしていると通り過ぎる音も心に向けると聞こえる。耳のカード。 • みんな、先生の顔わかる？何で？目で見ているから。目のカード。 • 朝ごはん、食べた？美味しかった？美味しい、うまい、まずい、苦いってどこでわかる？口のカード。 • 私たちは、5つの感覚を持って生活をしているけど、もう1つ大事な感覚があることを告げ、それは何かを問う。♥である。 • モノを観察する。よく見るということは、心の窓を開けないとよく見えない。感じて気づくという6つ目の感覚が必要である。それは、みんな持っていることを告げる。心をオープンにして観察しよう。 	 <p>■さまざまなカタチの葉っぱ</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> • 朝ごはん、食べた？美味しかった？美味しい、うまい、まずい、苦いってどこでわかる？口のカード。 • 私たちは、5つの感覚を持って生活をしているけど、もう1つ大事な感覚があることを告げ、それは何かを問う。♥である。 • モノを観察する。よく見るということは、心の窓を開けないとよく見えない。感じて気づくという6つ目の感覚が必要である。それは、みんな持っていることを告げる。心をオープンにして観察しよう。 • 箱に入っている葉っぱを1人1枚とらせて、画用紙に写し取ることを指示する。 • 葉っぱを裏返しにし、画用紙を載せて、色鉛筆かクレヨンで、その形をこすり出す。見本を見せる。 • こすり出したら、葉っぱを箱に戻す。 • 全員が終わったら、みんなで見せっこ。 	 <p>■葉っぱの違い</p>
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> • 箱から葉っぱを取り出して、広げ自分が選んだ葉っぱを探して持ち帰るように指示する。 • こすり出した葉っぱは、見つかった？見つからなかった？なぜ、見つかった！見つからなかった！ • 気づいたことをシェアする。 • 葉っぱは、さまざまなカタチをしている。それぞれに特長がある。 	 <p>■五感カード</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 箱に入っている葉っぱを1人1枚とらせて、画用紙に写し取ることを指示する。 • 葉っぱを裏返しにし、画用紙を載せて、色鉛筆かクレヨンで、その形をこすり出す。見本を見せる。 • こすり出したら、葉っぱを箱に戻す。 • 全員が終わったら、みんなで見せっこ。 • 箱から葉っぱを取り出して、広げ自分が選んだ葉っぱを探して持ち帰るように指示する。 • こすり出した葉っぱは、見つかった？見つからなかった？なぜ、見つかった！見つからなかった！ • 気づいたことをシェアする。 • 葉っぱは、さまざまなカタチをしている。それぞれに特長がある。 • 画用紙に日付と木の名前を入れると記録になる。 • 今度、公園や山に行った時、観察するように促す。そして、何か発見したら、気づいたら、おうちの人か先生に教えてねと伝えて終わる。 	

【プログラムのアピールポイント】

- さまざまな葉っぱを比較して観察力を養うことができる。
- 木や葉っぱには、さまざまなカタチがあることを知る。
- 同じものを使う、何度も繰り返すことでカタチを認識するようになる。
- 絵や文字の書けない子どもに対応が可能。
- 公園などについて木の肌をこすり出すと発展・応用につながる。
- 絵本「葉っぱのフレディ」「わたしのもみじ」「木のうた」の読み聞かせにつなげることができる。
- 葉っぱや紅葉のしくみにつなげることができる。「たくさんのふしぎ：落葉」

【プログラムの進め方】③アートプロジェクト「フロッターージュ」

	学習内容・活動	写真
導入	<ul style="list-style-type: none"> • A4 程度の画用紙、色鉛筆もしくは、クレヨン、クリップボードを用意。屋内は、葉っぱを準備する。 • 野外で行う時は、作業エリアを決め、かぶれやすい木やハチなど危険回避のリスクマネージメントが必要。 • 自分の好きな木幹や葉っぱを選ぶ。野外の場合は、葉っぱは、採取しないで、枝についたまま実施するように指導する。 	 <p>■木肌のフロッターージュ</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> • 屋内の場合は、あらかじめ葉っぱを採取しておく。 • 葉っぱは、クリップボードに挟むとやりやすい。 • 木幹や葉っぱに画用紙を載せて、素材を動かさないように、色鉛筆やクレヨンで形をこすり出す。 • 葉っぱは、裏の方が形がハッキリ出る。 • こすり出しやすいもの、そうでないものがある。 	 <p>■作品</p>
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> • こすり出せたら、1ヶ所に集めてみんなで見せっこ。 • 木肌や葉っぱには、さまざまな形があることを分かち合う。 • 好きな木や葉っぱはある？ • こすり出した時に気づいたことは？発見したことは？ 	 <p>■葉っぱのフロッターージュ</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 画用紙に木の名前と日付を書くと記録になる。 • こすり出しのうまい下手ではなく、さまざまな形を見つけられたことを大切にする。 	

【プログラムのアピールポイント】

- 木の肌や葉っぱ、葉脈には、さまざまな形があることに気づくことができる。
- 採取せずに自然の形を持ち帰る方法を知ることができる。
- 同じものを使う、何度も繰り返すことでカタチを認識するようになる。
- 絵や文字の書けない子どもに対応が可能。
- こすり出しの仕方と楽しみを知ることができる。
- 発展・応用として葉っぱジャンケンにつなげることができる。
- 発展・応用として葉っぱでリズムセッションすることができる。

以上、プログラム提供者：井上博夫